

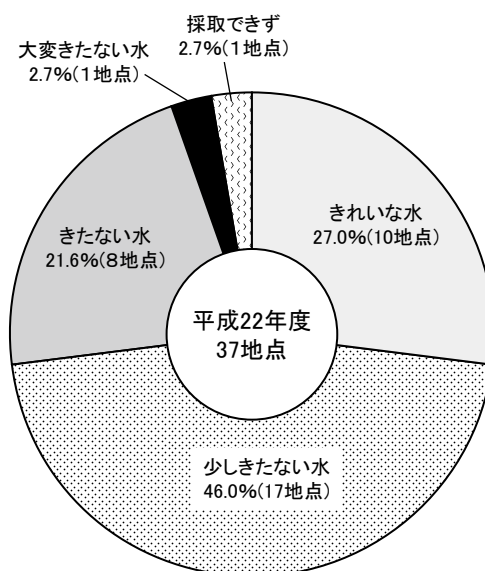
## (2)結果

水質階級別調査地点数は、表－2に示すとおり、水質階級が“きれいな水”と判定された地点は10地点(27.0%)、“少しきたない水”と判定された地点は17地点(46.0%)であった。

一方、“きたない水”と判定された地点は8地点(21.6%)、“大変きたない水”と判定されたのは1地点(2.7%)であった。また、指標生物が採取できず、水質階級判定ができなかった地点も1地点(2.7%)あった。

<表－2> 水質階級別調査地点

水質階級		調査地点数	(%)
きれいな水	I	10	27.0
少しきたない水	II	17	46.0
きたない水	III	8	21.6
大変きたない水	IV	1	2.7
採取できず	-	1	2.7
計		37	100



図－2 水質階級別調査地点数の割合

<表－3> の表記例

調査団体	1 ページ<表－1>調査団体一覧の団体番号を用いる		
生物採取場所	1：川を中心 2：上流から見て右岸 3：上流から見て左岸		
流れの速さ	F：速い（毎秒60cm以上） M：普通（毎秒30～60cm） S：遅い（毎秒30cm以下）		
川底の状態	1：頭大の石が多い	2：こぶし大の石が多い	3：小石と砂
	4：コンクリート	5：砂と泥	6：泥
	7：コケ	8：その他	
指標生物の出現状況	出現状況の欄に○印 ただし、出現した指標生物のうち、最も多かった種類には●印		



## (2)調査結果一覧(表-3)からの結果

### a. 指標生物の出現状況

指標生物の出現頻度および調査地点において最も数が多いと報告された指標生物(優占種)の出現頻度は、表-4のとおりである。

平成22年度に最も多くの地点で出現した指標生物は、ヒルであった。

<表-4> 指標生物の出現頻度及び優占種となった指標生物の出現頻度

水質階級	指標生物	指標生物の出現頻度(回)	指標生物の出現割合(%)	階級別出現割合(%)	優占種となった頻度(回)	優占種になった割合(%)
I きれいな水	1 アミカ	0	0.0	25.2	0	0.0
	2 ウズムシ	9	3.7		6	8.0
	3 カワゲラ	10	4.1		2	2.7
	4 サワガニ	9	3.7		5	6.7
	5 ナガレトビケラ	5	2.1		1	1.3
	6 ヒラタカゲロウ	11	4.5		4	5.3
	7 ブユ	5	2.1		0	0.0
	8 ヘビトンボ	7	2.9		3	4.0
	9 ヤマトビケラ	5	2.1		4	5.3
II 少しきたない水	10 イシマキガイ ※	4	1.7	36.0	0	0.0
	11 オオシマトビケラ	6	2.5		1	1.3
	12 カワニナ	17	7.0		7	9.3
	13 ゲンジボタル	4	1.7		0	0.0
	14 コオニヤンマ	8	3.3		2	2.7
	15 コガタシマトビケラ	6	2.5		1	1.3
	16 スジエビ	23	9.5		16	21.3
	17 ヒラタドROMシ	12	5.0		0	0.0
18 ヤマトシジミ ※	7	2.9	0	0.0		
III きたない水	19 イソコツブムシ ※	3	1.2	26.9	0	0.0
	20 タイコウチ	3	1.2		0	0.0
	21 タニシ	12	5.0		4	5.3
	22 ニホンドロソコエビ ※	2	0.8		0	0.0
	23 ヒル	24	9.9		12	16.0
	24 ミズカマキリ	2	0.8		0	0.0
	25 ミズムシ	19	7.9		3	4.0
IV い水 大変きたない	26 アメリカザリガニ	5	2.1	12.0	2	2.7
	27 エラミズ	5	2.1		0	0.0
	28 サカマキガイ	8	3.3		0	0.0
	29 セスジユスリカ	7	2.9		1	1.3
	30 チョウバエ	4	1.7		1	1.3

(注)割合については四捨五入のため、合計が100%にならないことがある。

(注) ※は、海水の少し混ざっている汽水域きすいいきの生物

## b.前年との比較

平成22年度の調査地点37地点のうち30地点が平成21年度と同じ地点での調査であった。これらの30地点の水質階級を比較すると、同じであったところが19地点、よくなったところが7地点、悪くなったところが4地点であった。

＜表－5＞前年度に対する水質階級の比較  
(前年度と同一地点で実施された地点の比較)

	前年度より よくなった	前年度と 変わらない	前年度より 悪くなった	全地点数
調査地点数	7	19	4	30
割合 (%)	23.3	63.3	13.3	100

## c.河川別調査結果の概要

表－3から考察される河川別調査結果の概要は次のとおりである。また、各調査地点における水質階級は、図－1及び表－3のとおりである。

### ① 与田川

与田川では、1地点で調査が行われ、“少しきたない水”と判定された。優先種はサワガニ、スジエビであった。

### ② 笠松川

笠松川では1地点で調査が行われ、“少しきたない水”と判定された。優先種はコオニヤンマ、スジエビであった。

### ③ 新川水系

新川水系では、春日川2地点、葛谷川1地点で調査が行われた。春日川で“少しきたない水”、葛谷川で“きれいな水”と判定された。優先種は、春日川でカワニナ、スジエビ、セスジユスリカ、葛谷川でカワゲラ、サワガニであった。

### ④ 摺鉢谷川

摺鉢谷川では2地点で調査が行われ、“きれいな水”“大変きたない水”と判定された。優先種はヘビトンボ、ヤマトビケラ、チョウバエであった。

### ⑤ 香東川水系

香東川水系では、香東川7地点で調査が行われ、“きれいな水”から“きたない水”まで判定された。優先種はウズムシ、ヒラタカゲロウ、ヤマトビケラ、カワニナ、コガタシマトビケラ、スジエビ、ヒル、ミズムシであった。

### ⑥ 本津川

本津川では4地点で調査が行われ、“きれいな水”から“きたない水”と判定された。主な優先種はサワガニ、ヤマトビケラ、カワニナ、スジエビ、ヒル、ミズムシであった。

### ⑦ 綾川

綾川では5地点で調査が行われ、“きれいな水”“少しきたない水”と判定された。主な優先種は、ウズムシ、カワゲラ、ヘビトンボ、コオニヤンマ、スジエビ、タニシ、ヒルであった。

### ⑧ 大東川

大東川では1地点で調査が行われ、“きたない水”と判定された。優先種はスジエビ、タニシであった。

⑨ 土器川

土器川では 2 地点で調査が行われ、“きれいな水” “少しきたない水” と判定された。優先種はウズムシ、サワガニ、ヘビトンボ、カワニナ、スジエビであった。

⑩ 金倉川

金倉川では 1 地点で調査が行われ、“少しきたない水” と判定された。優先種はスジエビ、ヒルであった。

⑪ 弘田川

弘田川では 1 地点で調査が行われ、“きたない水” と判定された。優先種はタニシ、ヒルであった。

⑫ 高瀬川

高瀬川では 3 地点で調査が行われ、“きれいな水” “少しきたない水” と判定された。優先種はヒラタカゲロウ、オオシマトビケラ、カワニナ、スジエビ、ヒル、ミズムシ、アメリカザリガニであった。

⑬ 瀬入川

瀬入川では 1 地点で調査が行われ、“きたない水” と判定された。優先種はタニシであった。

⑭ 財田川

財田川では 4 地点で調査が行われ、“きれいな水” から “きたない水” と判定された。優先種はサワガニ、カワニナ、ヒルであった。

⑮ 一の谷川

一の谷川では 1 地点で調査が行われ、“少しきたない水” と判定された。優先種はスジエビ、アメリカザリガニであった。